

3 授業実践

(2) 小学校 2 年生の授業実践②

1 主題名 「生きものに 優しく」 (D-20【自然愛護】)

2 教材名 「まいごになった 赤ちゃんくじら」(東京書籍)

3 教材について

本教材は、水中カメラマンである作者が、南の島でクジラの親子に会ったときの出来事を、自らの語りを進めていく話である。話の中心である赤ちゃんクジラは、無邪気で人間に対する警戒心がない。作者も、特に赤ちゃんクジラに干渉することはなかったが、赤ちゃんクジラがお母さんクジラとはぐれてからは、親身になって探索している。赤ちゃんクジラだけでは生きていけないことを知っていて、出会いたいのちを自分ができる限り守りたいという気持ちが感じられる教材である。

4 ねらい

動物のもつ不思議さや、共に生きていることの愛おしさなどを感じさせ、生き物の側に立って人間との関わりについて考えを深めさせることで、自然に親しみ、動植物に優しく接しようとする心情を育てる。

5 展開

_____ は「協働的な学び」における発問や手立て

段階	学習活動 ◆主な手立て	_____ は基本発問
導入	<p>1 生き物の気持ちについて興味をもつ。</p> <p>◆児童の問題意識を高めるために、電子黒板のスライドは幸せそうな動物たちから不幸せそうな動物たちの順番で見せた。</p> <p>◆生き物に対する今の気持ちを明らかにさせるため、生き物を大事にしたい気持ちと、そうではない気持ちの2つの視点を持たせて、生き物に対する気持ちの大きさをワークシートに表現させた。</p>	<p>T 生き物は好きですか。嫌いですか。それはどうしてですか。</p> <p>C 好き…21人…かわいい・飼っている</p> <p>C 嫌い…1人…こわい</p> <p>C 不明…4人</p> <p>T じゃあ、こんな動物たちはどうですか。</p> <p>C かわいい。</p> <p>C だっこしてみたい</p> <p>T この動物たちは？</p> <p>C こわい</p> <p>C きたない</p> <p>T どうしてさっきまでと、言っていることが違うの？</p> <p>C だって、よごれてるから。</p> <p>C きばを出してほえてるから。</p> <p>T 生き物を大事にしたい気持ちと、大事じゃないと思う気持ち、どちらがどれくらい大きいですか？</p> <p>C 大事な気持ちの方が大きい。</p> <p>C 大事じゃない方が結構小さい。</p> <p style="text-align: right;">自己の考えを可視化させる手立て</p>





T 実は、この犬たちは捨て犬なんです。どんなことを考えていると思う。

C どうして捨てられたのかな？

C 悲しい。

C これからどうなっちゃうのかな？

T この生き物たちはどうですか。

C 目がこわい。

C 枯れちゃってかわいそう。

C 檻に入れられてかわいそう。

C 「ちゃんと面倒みてよ」って思ってる。

T この生き物たちは困っています。どうしてですか？

C ちゃんと面倒みてもらってないから。

C 捨てられたから。

T 困らせているのはだれですか？

C 人間

C 飼い主

C 私たち

T 人間のせいで困っている生き物がたくさんいるんですね。

T 今日は、「生き物と人間が、一緒に生きていくってどんなことかな。」っていうことについて考えていきます。

T もう一つ今日大事なこと。生き物の気持ちになって考えてください。

展開

2 教材「まいごになった赤ちゃんくじら」を読み、話し合う。

◆状況や登場人物の関係が分かるように、問い掛けながら読み聞かせを行った。

◆赤ちゃんクジラとお母さんクジラの動きが分かるように、挿絵を使い黒板に物語の流れを整理して提示した。



T どんなお話だったかな。

C 赤ちゃんクジラが迷子になる。

C 人間とクジラと一緒に遊ぶ。

T クジラのかわいかったところはどこですか。

C 鳴き声

C 潮を吹くところ

C 海から出てくるところ

T お母さんクジラが安心したのはどうしてですか。


C 「ぼく」たちが何もしてこなかったから。



T それで、赤ちゃんクジラはどうしたのかな？

C ボートの周りで遊んだ。

C ボートを友達と思った。

C 楽しそうに遊んだ。

<p>◆クジラと人間が触れ合う様子が分かるように、動画を見せた。</p> <p>◆役割演技のお手本を見せた。</p> <p>◆役割演技では難易度を下げするため、お母さん役の最初の言葉を決めて提示した。</p> <p>◆役割演技では、自分がどの立場で発言するか間違えないように、イラストを持たせて取り組ませた。</p>	<p>C 「ぼく」についてきた。</p> <p>T だから、赤ちゃんくじらは迷子になったんですね。それで、お母さんを探さなきゃってなったんですね。でも、一人じゃ無理だから、たくさんの人たちに呼び掛けた。</p> <p>T <u>たくさんの人たちは、どうしてぼくの呼び掛けに答えてくれたのでしょうか。</u></p> <p>C このままお母さんに会えなかったら、赤ちゃんクジラが死んでしまうから。</p> <p>C このままだと、赤ちゃんくじらに会えなくて、お母さんくじらも悲しいから。悲しまないように。</p> <p>C かわいそうだから。</p> <p>C もっと大きくなってねって思っているから。</p> <p>C 助けたいって思ったから。</p> <p>T 自分が飼っている訳でもないのに？</p> <p>C 自分が飼ってなくても、いのちは大事。</p> <p>C それでも、助けたいって思う。</p> <p>T なるほど、クジラさんと人間ってこんなに仲良くなれるみたいだよ。</p> <p>T <u>たくさんの人たちののおかげで、赤ちゃんくじらはお母さんくじらのところに戻ることができました。最後に、「お母さんくじらと赤ちゃんくじらは、お家に帰ってどんなお話をするのでしょうか？」と書いてあります。どんなお話をしたと思う？お母さん役と赤ちゃん役に分かれて役割演技をしてみましよう。</u></p> <p style="text-align: right;">自己の考えを可視化させる手立て</p>
<p>C 人間のお友達と遊んでいた</p> <p>C 優しくかった。</p>	 <p>T お母さんとはぐれていた間、何をしていたの？</p> <p>T 人間って、どんな感じだった？</p> <p style="text-align: right;">児童生徒の対話を深めさせる手立てや発問</p>

<p>行きたい。</p> <p>人間とお友達になったから。</p> <p>一緒に遊べて楽しかった。</p>		<p>また、行きたい？</p> <p>どうして？</p> <p>一緒に遊べてどうだった？</p>
<p>◆気持ちの変化を自分や他者が分かるように、ワークシートに丸の大きさを表現させた。</p>		<p>T 生き物も、人間と同じように、一緒に遊んだり、優しくされたりすると、嬉しいの？ どうして？</p> <p>C 自分の家の犬も嬉しそうだし、嬉しいのは同じだから。</p> <p>T なるほど、人間は生き物を幸せにする力をもっているんですね。</p> <p>C うん。</p> <p style="text-align: center;">児童生徒の対話を深めさせる手立てや発問</p> <p>T なるほど。じゃあ、みんなの生き物を大事に思う気持ちと大事じゃないと思う気持ち、今の大きさを最初のとときと比べてみてどうなったか教えてください。</p> <p>C 大事だと思う気持ちをもっと大きくなった。</p> <p>C 大事じゃないと思う気持ちは、かなり小さくなった。</p> <p>T どうして、そのように思いましたか？</p> <p>C 生き物も赤ちゃんのままじゃなくて、大人になるまで元気でいてほしいから。</p> <p>C 生き物がいなくなったら、楽しくないから。</p> <p>C 生き物が自分だとして、もしも死んだら嫌だから。</p> <p>C 人間のようにいのちがあるから、大事だと思う。</p> <p style="text-align: center;">自己を問い直させる発問や、これからをイメージさせる手立て</p>
<p>終末</p>		<p>T みんなの素敵な思いが聞けました。これから、みんなはたくさんさんの生き物と出会うでしょう。そのときに、今の言葉や気持ちを思い出してくれたら、先生も嬉しいです。</p>

6 授業のまとめ

(児童のワークシート記述例①)

まいごに なった 赤ちゃんくじら

2ねん (ばん) なまえ ()

1. 生きものを だいに したい きもちと、だいじじゃないと おもう きもち、
どちらが どれくらい 大きいかな？ まるの 大きさを くらべて みよう。

2. 赤ちゃんクジラと おかあさんクジラに なってみたあと。

3. どうして、そのように したのですか。

だいに だいじじゃない ちいさくした

だいに だいじじゃない おおきくなつた

いんけんもいきものもみんな
ともだちだからです
生きものも友達なんですから、それもあるのがすばらしい！

最初より、生き物を大事に思う気持ちが大きくなり、大事じゃないという気持ちの方が小さくなっている児童による記述。人間と生き物の関係性から、生き物の大切さに目を向けていることがうかがえる。

(児童のワークシート記述例②)

まいごに なった 赤ちゃんくじら

2ねん () 名前 ()

1. 生きものを だいに したい きもちと、だいじじゃないと おもう きもち、
どちらが どれくらい 大きいかな？ まるの 大きさを くらべて みよう。

2. 赤ちゃんクジラと おかあさんクジラに なってみたあと。

3. どうして、そのように したのですか。

だいに だいじじゃない ちいさくした

だいに だいじじゃない 大きくなつた

あかちゃんくじらは、まだあかちゃん
のままじゃなくておとなになるまで
けんきでいてほしいから
なるほど、けんきでいてほしいから、だいに、あかちゃんも大き
大きくなら、たんですわ。

最初よりも、生き物を大事と思う気持ちが大きくなり、大事じゃないという気持ちの方が小さくなっている児童による記述。理由として、生き物の「いのち」に目を向けて、大きく成長していけるように願っていることがうかがえる。

○視点Ⅰ「児童は多面的・多角的に価値を捉え直していたか」について

人間としての生き物への気持ちだけでなく、生き物の側からの人間への気持ちについて考えさせるために、役割演技を取り入れました。赤ちゃんクジラの気持ちになって、お母さんクジラ役の児童の問い掛けに答えるように声掛けをしました。お母さんクジラの気持ちになって、赤ちゃんクジラ役の児童に聞きたいことを考える児童もいました。「いのち」「ともだち」「人間と同じ」など生き物を大切にするためのキーワードを多くの児童が見付けていました。

○視点Ⅱ「児童は自己のこれまでの価値理解を修正したり、強化したりできたか」について

生き物に対する気持ちを円の大きさを示させたところ、最初と役割演技をした後では、その気持ちに変化が表れていた児童が多くいました。「生き物を大切に思う気持ちを、もっと大きくしたかったけど、入らなかった」と述べる児童もいました。さらに、大切じゃないと思う気持ちが小さくなっている児童が22人いました。生き物に対するプラスのイメージが大きくなったというよりも、生き物に対するマイナスのイメージが弱くなったことがうかがえました。